

環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

活動団体名：徳之島地区自然保護協議会

活動地域：世界自然遺産候補地

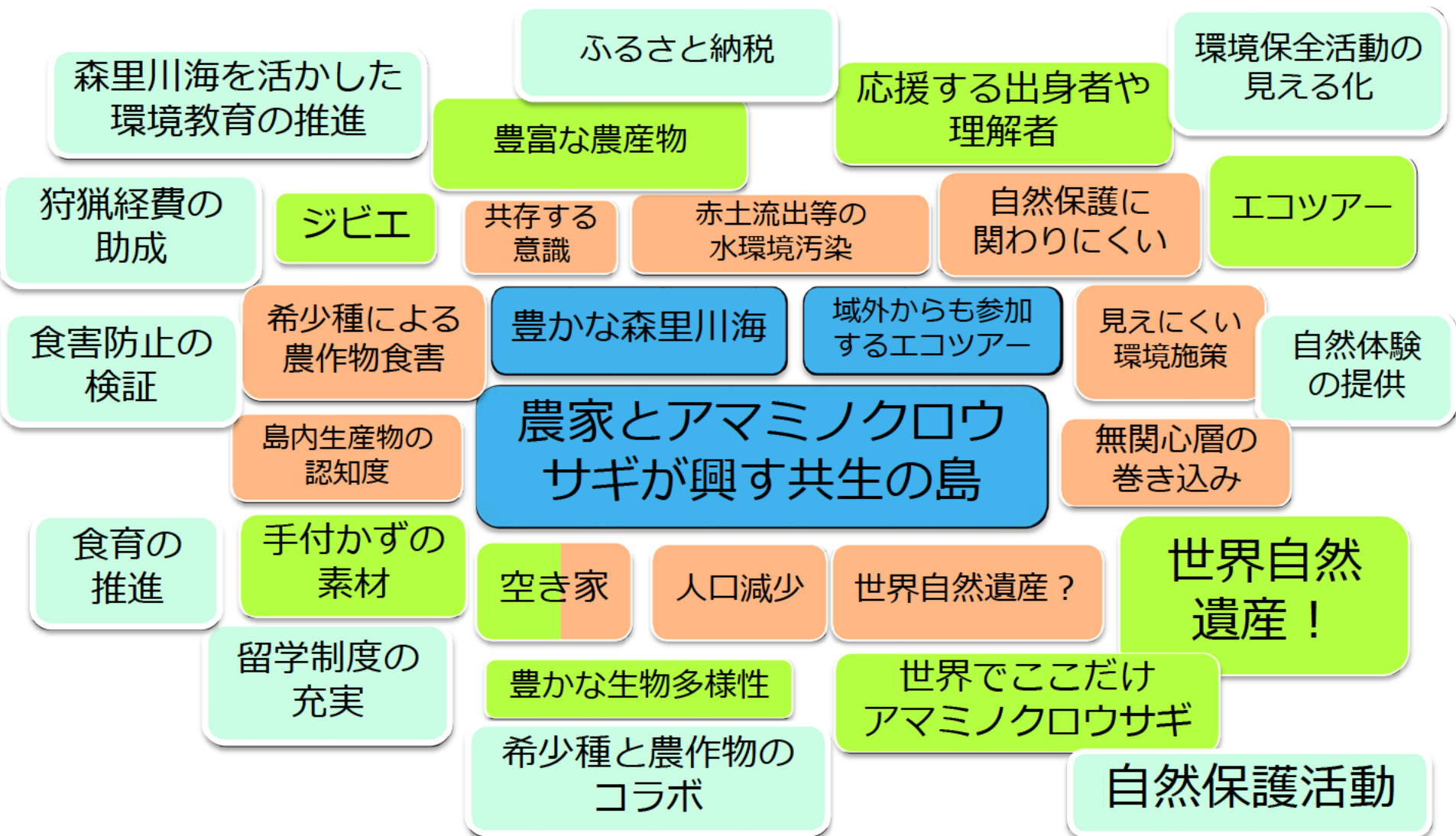
鹿児島県徳之島

活動におけるテーマ・キャッチコピー

希少種と島民が興す島づくり



地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



ビジョン

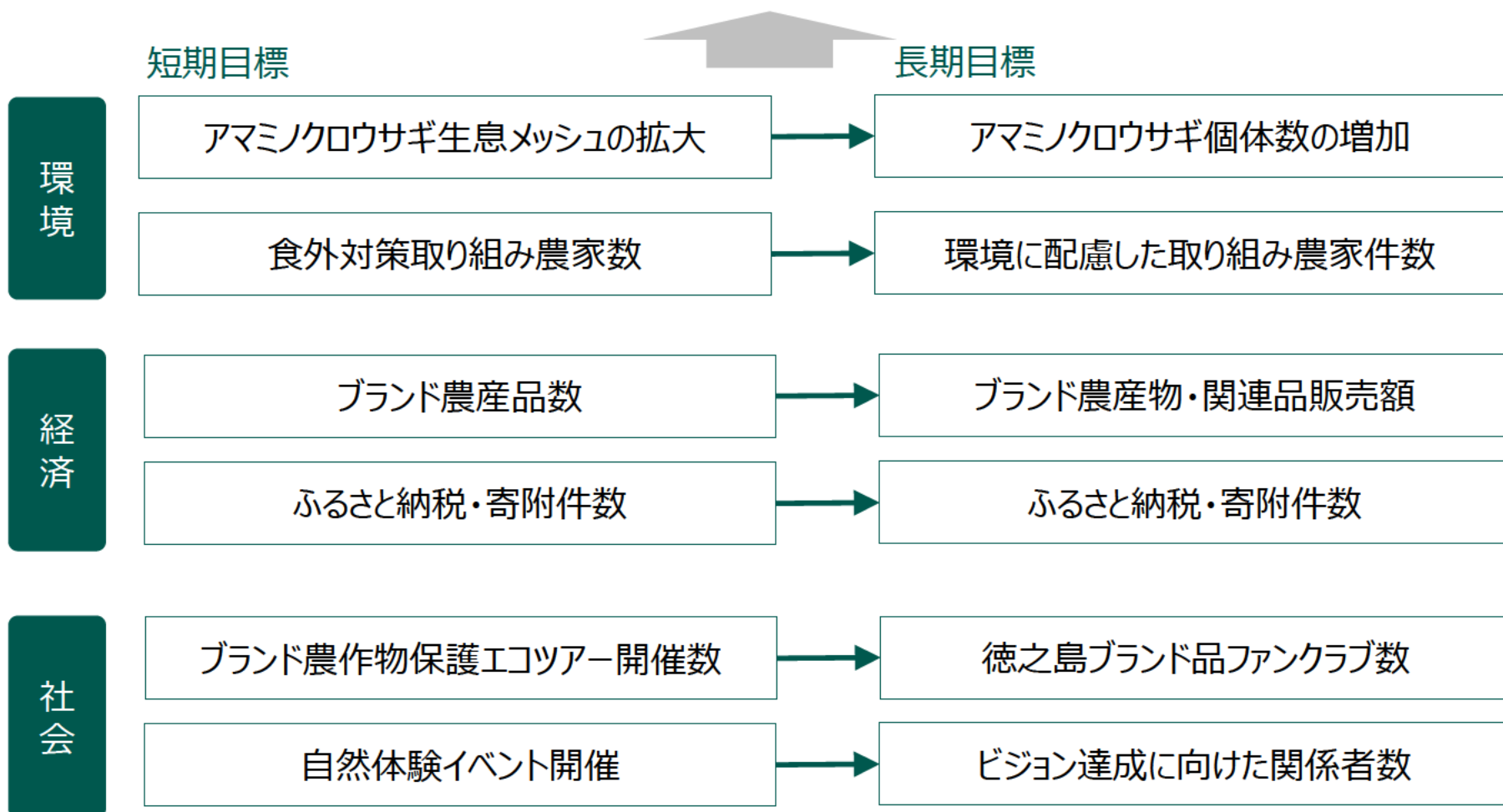
課題

資源

取り組み

地域のビジョンを実現するための成果指標

アマミノクロウサギ = 害獣と捉えていた農家の意識を払拭するため、食外対策に取り組むと同時に、アマミノクロウサギが訪れる農園で取れた農作物の高付加価値化を図る。
また、関連するエコツアー等を開発し、都市部からの人を呼び込む流れを生み出し、徳之島版地域循環共生圏の仕組みを構築する。



コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	徳之島産農作物の高付加価値化事業	
	事業の概要	<p>2020年夏、世界自然遺産登録が期待される徳之島において、島内で生産された農作物の高付加価値化を目指す。</p> <p>アマミノクロウサギなどの希少種との共存を目指した取り組みを行っている農家が生産した作物等を対象とする。令和元年度では、アマミノクロウサギが訪れる農園で育ったタンカンのブランド化を推進した。</p> <p>農作物の売買単価をあげることで、農家の所得向上に取り組むとともに、環境保全型農業の普及を推進する。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>ブランド化にあたっては、魅力あるストーリーの構築や的確な素材の抽出など外部の専門家からの助言がほしい。</p> <p>ブランド化された商品を域外に販売するツールとしてふるさと納税等を検討しているが、その他の消費者に届けるための手段が課題となっている。</p> <p>現在、大手企業との販売契約の交渉を行っている。</p>
2	事業の名称	アマミノクロウサギ食害モニタリング事業	
	事業の概要	<p>上記に関連し、国の特別天然記念物であるアマミノクロウサギによる食害をモニタリングする。</p> <p>事業の実施にあたっては、農家に委託し、農業閑散期を中心に調査を行う。</p> <p>得られたデータから効果的な食害対策方法について、行政・関係機関と協議を行い、対策を講じる。</p> <p>資金としては、行政からの支出金のほか、徳之島産農作物の高付加価値化事業で得られた利益の一部を充当することで、農家全体が関心を持てるよう工夫を凝らす。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>アマミノクロウサギは夜行性であり、生態や行動について研究されていない部分が多く、発生原因を特定するには相当な時間(調査・研究)が必要。</p> <p>専門家からの知見が得られないと、食害発生を記録するだけに終わってしまう可能性がある。</p>
3	事業の名称	徳之島環境学習事業	
	事業の概要	<p>希少な生きもの達が暮らす自然環境を後世につなぐため、その価値を正しく理解し、誰もが自然を守るための意識啓発を行う。</p> <p>域内・域外を対象とした自然体験・エコツアーを行う。</p> <p>活動資金には、上記と同様に工面することで、住民全体が関心を持てるよう工夫を凝らす。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>徳之島のような交通の利便性が悪い場所でも出かけたい魅力あるエコツアーの確立に向けて、専門家からの助言がほしい。</p>

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- ステークホルダーとの意見交換会では、資金の獲得方法について、エコツアーの開催など新たな発見があった。
- 地域の課題である農業被害の防止に向けて、ただ保全するだけでなく、活用することで賛同していただける方を巻き込む発想に出会えた。
- 希少種×農産物＝地域ブランドの考え方が農家にも広がり始めた。
- 他地域の実例などを知ることができ、大変参考になった。

地域の活動の上での課題

アマミノクロウサギとの共存を目指した農業方法の確立は、主幹産業が農業である徳之島においては取り組むべき最優先課題である。効果的な食害対策を実証すると同時に、地域住民の方々に落とし込むことで、共存に向けた取組みに対する理解者を増やすとともに、域外からの支援者を増やすことにつなげたい。

今後の意気込み

- 短期目標に設定したアマミノクロウサギ個体数の増加に取り組む。
- 農家にとってアマミノクロウサギが食害をもたらす害獣とのイメージを払拭させるため、農作物のブランド化・販売促進について関係団体とともに取り組む。
- 希少種との共存を目指した食外対策方法を確立させ、それらの取組みをエコツアーの商品として販売する。
- 上記に加え、農家体験作業・クロウサギ観察ナイトツアーなどを組み合わせ滞在型の観光商品を構築し、集落等と連携した地域循環共生圏の確立を目指す。

令和2・3年度までの将来構想



希少種保護活動

希少種個体数増加

農作物への食害発生

食害モニタリング

農作物のブランド指定

農作物保護柵の設置

ふるさと納税・企業連携
販売促進

効果
検証

エコツアー
商品化

利益の
一部

・環境教育学習
・シンポジウム

新たな支援者の獲得

徳之島地区自然保護協議会

行政

農家

事業者